



# 広西壮族自治区から、新聞代表団来熊

## バスが見えなくなるまで 手を振ってくれた皆さんのまごころ、 広西の仲間へ、きつと伝えます。

姉妹提携10周年を記念して、  
広西壮族自治区友好代表団と  
ともに新聞代表団が、5月19日～26日、  
熊本を訪れました。  
一行は、県下各地を視察するほか、  
新聞、放送などのマスコミ機関へも  
積極的に見学して回りました。



饒 諮さん  
(広西日報副編集長)

美しい天草の海と公園、雄大な阿蘇山やアスペクタが印象に残っています。一番感じたのは、農家を訪問した際、大変親切にしてくれたことです。私は、このことを国の皆に伝えたいと思います。



寧 范恵さん  
(広西日報編集長助手)

帰国したら、写真などを整理して早く「広西日報」に書きたいと思えます。熊本の新聞社の方とも話したことですが、これからはマスコミ交流もしていきたいですね。



林 旭喬さん  
(広西テレビ局ニュース部門副主任)

照明器具を借りたり、資料映像を頂いたり、熊本のマスコミの方々には大変お世話になりました。今回の取材は、シリーズで紹介するつもりです。熊本を野菜に例えれば、「おいしい料理」に仕上げてみせますよ。



林 永紅さん  
(広西テレビ局ニュース部門記者)

熊本に滞在中はお天気が良かったので、写真やビデオの映りが良かったのが何よりでした。たくさん撮りたいとの一心で、全然疲れませんでした。



杜 晶一さん  
(広西区党委宣传部部長)

代表の杜晶一広西区党委宣传部部長を始め、皆さんに熊本の印象について語っていただきました。  
熊本は緑が多く、非常に美しいところだと思いました。テクノポリスセンターを始めとして、水産研究センターや農研センターなどを見て回りましたが、技術・研究だけでなく、普及まで徹底しているのに感心しました。これから、特に、農水産業の分野で日中交流の輪を広げていければと願っています。  
また、熊本の至るところで、熱烈な歓迎を受け、皆さんの中国に対する温かい心を感じました。この訪問により、互いの理解と友情が一段と深まったように思いました。私は、ぜひこのことを、自治区の人々に伝えたいと思います。謝々。そして、再見。



韋 瑜さん  
(広西外事弁公室通訳)

通訳として同行した韋瑜さんは、昨年中、県費留学生として熊本に来ていた人。私たちにとっても嬉しい再会となりました。



## 人形芝居を いっそう面白くするカラクリ。

この頭は、展示用に新しく制作したのですが、「玉藻前職袂」化粧殿の場で、金毛九尾の狐が玉藻前という女官に化けたときに使う頭です。

両面と書いて「ふたおもて」と読みますが、狐面の裏は娘頭の姫の面となっていて、使うときは、その場に応じて、反転させながら娘と狐を交互に使われます。

制作者は、徳島県鳴門市在住の大江巴之助翁(八五)です。大江さんは、徳島の宝と言われ、国選定保存技術保持者で、清和文楽とは人形の修理を通じて、昭和三十年代からの付き合いが続いております。

文楽で使われる頭には、このようにいろいろなカラクリがほどこされており、芝居をおもしろくしようと工夫した先人たちの知恵がしのべれます。

同じ展示の中には、日高川の清姫がガブと言われる鬼女に変わる仕掛けもあります。ちょうど、暑い季節でもあり、ゾクツとして見るのも一興でしょう。

清和文楽館／文楽邑支配人 兼瀬哲治



撮影／石丸建一

- 利用のご案内
- 開館時間 午前9:00～午後4:30
  - 休館日 毎週月曜日(ただし、祝祭日のときは翌日が休館)
  - 入場料 小・中学生200円 一般(高校生以上)400円
  - 清和文楽公演 第2、第4日曜の午前11:30より公演(30分～40分)200席
  - 予約公演 20人以上の団体のみ、希望の日に公演を行います。(ただし、2週間前までに予約要)
  - 公演観覧料 大人(高校生以上)1,200円 中学生800円 小学生600円
  - 交通機関 バス/熊本交通センターから熊本バスで馬見原行きで1時間50分、文楽邑前下車車/熊本市内から国道445号を走る。浜町から国道218号に入って15分。